

語り合いのシンポジオン「学生参加のまちづくり」の報告

参加学生、アドバイザー教員、研究委員会、事業委員会、広報部会、支部大会富山実行委シンポ班

1. はじめに

北陸地域の各地で、学生が街づくりを自主的に企画運営している。こうした学生の若さあふれる情熱を語り合いのシンポジオンに結集した。ここにその内容を報告する。

- ・2004年7月17日(土)12:30-13:45、富山県民会館会議場
- ・趣旨説明 参加者 90人
- ・話題提供(各グループ10-15分)
 - 1)信州大グループ：舞台の解体実演への取り組み
 - 2)金工大グループ：広坂・あかりの回廊
 - 3)街ゼミグループ：チャリデアート
 - 4)福井大グループ：雑木林からまちづくりへ
- ・自由討議(20分、発表グループ学生を聴衆が囲み討議ラリー)
- ・総括(2分)トータル75分。

2. 信州大グループ：舞台の解体実演への取り組み

発表：土屋直人、西山哲雄(ともに大学院M2)

アドバイザー：土本俊和(教授)

<プレゼン>「松本市重要有形民俗文化財」に指定されている、松本深志神社の全16台の舞台(山車)を、地元と学生の協働によって、保存する計画が立てられました。

解体作業を「解体ショー」で公開することで、一般市民の関心の向上と、修復作業を地元の職人が行うことで、地元の技術・文化の復興と伝承を目指しました。来年以降も継続して保存は進められていきます。活動が継続されることで、長期的な街づくりが期待されます。

学生参加の街づくりということで、松本市における舞台の保存について発表した。多少、皆さんとは違ったテイストになってしまい、良くも悪くも個性的な発表になったと思います。(by 西山)

<討議>：発表後、会場に来られた皆さんとの語らいの場がもたれましたが、その際には、富山県の高岡での山車の保存の事例について教えていただいたり、舞台をつくる職人について、貴重な示唆をいただいたりしました。また、修復方法について、県内の職人だけに限らず、広く県外からも技術者を呼んできたかどうかというアドバイスもいただきました。

こういったご意見は、内にとどまっていたは得られないものだと思いますので、今回のシンポジオンのような場は良い機会であったと思います。また、他の発表も大変興味深いものばかりで、普段はなかなか知ることのできない、他大学の学生の活動について見聞き出来、貴重な体験となりました。(by 西山)

3. 金沢工業大学グループ：「広坂・あかりの回廊」

発表：田崎浩司、頓宮引三、東出絵美(全員4年生)

アドバイザー：川崎寧史(助教授)、宮下智裕(講師)

<プレゼン> 金沢大学や県庁移転により空洞化が進む金沢市中心部・広坂界隈の活性化を図るため、近代

文学館(旧制四高)などに対する建築ライトアップや、市役所前広場・広坂商店街のあかりオブジェによる夜景演出が行われた。このプロジェクトには金沢工業大学の建築系6研究室および「あかりクラブ」のサークルが参加し、学生を主体したライトアップ・あかりオブジェの制作や市民アンケートなどが盛大に実施された。(by 川崎)

<討議>：今回、私が発表させていただいた内容は「照明プロジェクトから街づくりへ」でしたが、ディスカッション時での質問事項として、「照明器具の材料」、「あかりを考える社会実験は自分自身にとってどのようなものだったか」「現状のライトアップ計画とCGでの改善計画では比較しにくい」「今後のプロジェクト予定」等、多くの意見・質問が挙げられました。それぞれの質問については、各々が返答しましたが、このようなプロジェクトではデザイン的な要素が高い為、自身の考えや感性に頼るものが主であるため、自身の考えについて述べることで対応しました。(by 頓宮)

<コメント>：各チーム(宮下研究室、川崎研究室)ごとの、ユニークで素晴らしいデザインの照明器具を町中に置くという、学生の知恵とセンスが町の中に輝いているようであった。(by 葉袋)

4. 街ゼミグループ：チャリデアート

発表：宇津徳浩(金大大学院M1)、岸本和子(同D1)

街ゼミは学生とまちづくりネットワーク委員会の略称。

<プレゼン> 今回の発表では、金沢大学としてではなく街ゼミという金沢のまちづくり団体として発表させていただきました。福井大地域計画研の修士1年川口さんがぜひやりましょと声をかけていただいて参加しました。(by 宇津)

<内容については>：

廃棄自転車の再生デザインコンテストと利用について取り組みです。イベントとレンタサイクルの関係性の検討をし、拠点を設けてのレンタサイクルを行うものであり、21世紀美術館、アナザームーブメント、香林坊ハーバーを結ぶ回遊性の検討をしました。(by 葉袋)

<討議>：Q.「街ゼミ」はどのようなきっかけではじまったのか。A.金沢にいる学生が金沢市内だけでなく県内各地のまちづくり活動を支援できるように、意欲的な学生と各地の先進的なまちづくり団体を連携し、サポートすることを目的として、2002年09月28日に「街ゼミ」が誕生しました。市役所からは自立しています。Q.もっと幅広い年代にターゲットを広げるために、京都や東京の三輪タクシーのようなものを導入してはどうか。A.若者が中心となってしまうのは確かに問題で今後も検討したい。A.今回のプロジェクトは廃棄自転車を使うところにひとつの特徴があります。C.長野市の「みどりの自転車」は無料で市が管理しております。A.駐輪場の

場所やどのようなレンタサイクル形態なのか参考にする必要があります。C. 21世紀美術館自体が美術館から外へという考え方を持っているので賛同してくれると思う。A. 美術館もひとつの目玉ですのでいろいろとお話を聞いてみたい。Q. 駐輪場の配置に関して少し一箇所に集まりすぎていないか。A. 現在の駐輪場の配置は、イベントの開催箇所に合わせた形で決定しました。A. 将来的にまちなかにレンタサイクルを広げていく場合、金沢市内全域にいろんな場所に行けて、いろんな魅力を感じていただけるように配置するのが良いと思います。C. イベント同士を連結していくという考え方が大変おもしろい。A. イベントの存在や参加を促すことも重要と思います。C. プロジェクトに参加してみたいです。大勢でまちづくりをしていくというのは楽しいですよ。 (by 宇津)

5. 福井大学グループ：雑木林からまちづくりへ

発表：竹原育美、川口充康、大森直紀、他(全員院生)

<プレゼン> 雑木林を楽しむ会は河川の拡幅に伴い公園となる予定地の樹齢100年を越す木のある福井の市街地部では珍しい空間を地域の人の声として雑木林の今後について考える団体。(by 葉袋) 雑木林を地域で共有する事を目的に、様々なイベントを通して、地域の方との繋がりを深めて取り組んでおります。(by 大森)

<討議>：「如何に地域のひととやるのか」という課題だったが、高齢者や子供への働きかけをしたらどうか。大学と連携し、大学を地域に開放するという方向性は出せないのかという意見あり。(by 葉袋) C. 信州大学の方から地域の高齢者の方と一緒に活動しており地域の方が主導での活動が展開している。A. 今後見学・交流の機会をつくりたい。C. 高岡からの3年生グループの方も関心を持ってくれた。今回北陸各地での学生による取り組みに私たちと同様の課題や、参考にさせて頂きたい事例を見だし、議論を通し皆さんと親交を深めたかったのですが、少し時間が足りなかったです。今回の企画は学生にとっても励みになり是非続けて下さい。(by 大森竹原川口)

6. まとめ(by 葉袋)

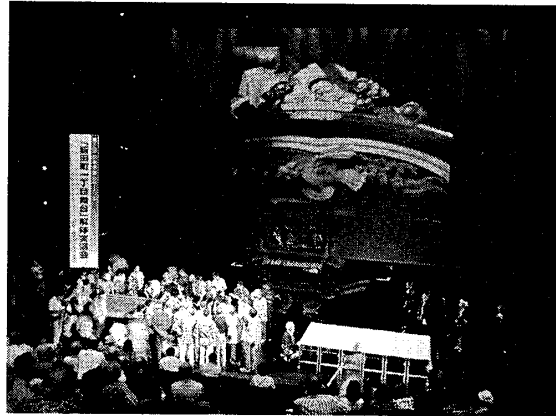
○本多(福井大)：時間が足りないこともあったのではない。各々のグループのことを会場全体で話し合えるようなこともあって良いだろう。

○櫻井(福井大)：論文発表だけではない学会の場になりたい、元気が出るような活動をやりたいということでシンポジオンを始めた。昨年までは、役場や実務者からの発表であり、今年は学生との喧々諤々であった。最近の学生は元気がないと言ったりもするが、本当の元気に我々は気がついていないだけだったということに気がついた。これを地域に持ち帰ってお互いに切磋琢磨できると良い。もともとは学会の活性化の企画だが、特に北陸は範囲が広いので活性化を考えたい。

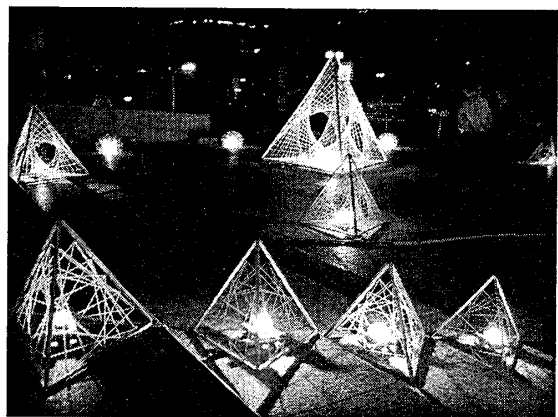
7. 補足

今回のシンポジオンでは以下のことが特筆される。「大学の枠を超えて学生とおしこみコミュニケーションできたことが学生にとって大変有意義であったこと、学生がエネルギーであることに大人が気づかされたこと」。ただし、本シンポジの短い時間内では

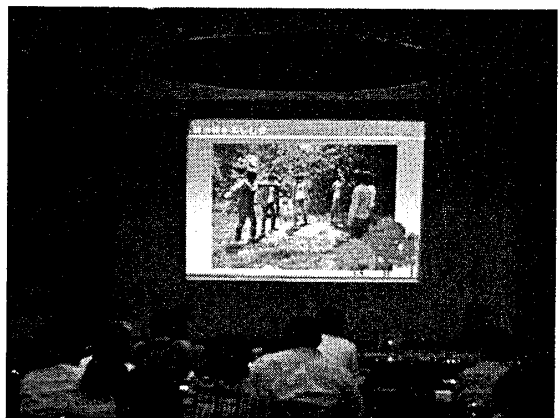
討議の全貌が全聴衆に十分伝わらなかったため事後ケアとして討議結果を記した本稿を全聴衆に配信して彼らの声を届ける。



舞台の解体表演への取り組み



広坂・あかりの回廊



雑木林からまちづくりへ



フリーディスカッション風景